

- 2022年1月16日午前5時頃、水処理当直員が定時データ採取時（1日1回）に陸側遮水壁のブライン（冷媒・塩化カルシウム溶液）タンク液位を確認したところ、同タンク2基において、1月15日に比べて液位が低下していることを確認しました。
- ブライン流量データより、ブラインの漏えいの可能性の高い場所は5BLK-H6エリアと判断し、現場確認を行ったところ、5BLK-H6エリア周辺に、ブラインの水溜まりを確認しました。その後、5BLK-H6エリアの2つのバルブを操作して凍結管を隔離しました。今後、5BLK-H6エリアの凍結管等の調査を行い、損傷箇所の特定と補修を行います。

＜[2022年1月17日 お知らせ済み](#)＞

- 損傷箇所の特定のため、1月18日から5BLK-H6エリアの凍結管14本を対象に耐圧試験を実施しました。
- 耐圧試験の結果、以下のとおり、2本の凍結管で損傷もしくは損傷疑いの事案を確認しました。
 - ①凍結管継手部の歪みからのブラインの漏えいを確認
 - ②ブラインの漏えいは確認されていないが、圧力低下を確認
- 1月20日～22日に当該2本の凍結管について、継手部材を交換し、保温材を取り付け、1月22日までに5BLK-H6エリアの全ての凍結管の凍結を開始しました。
- 凍結管継手部の歪みの原因につきましては今後調査していきます。
- 今後、5BLK-H6エリア以外の凍結管の目視点検を実施するとともに、ブライン漏えいが確認された凍結管近傍の凍結管において、予防保全として継手部の交換を実施していきます。
- 5BLK-H6エリアの測温管の温度上昇に有意な変化はなく、地下水の遮水能力に影響を与えるものではないと評価しています。

1. 損傷個所の調査と補修

【調査方法】5BLK-H6の凍結管（14本）を対象に損傷箇所の確認するための耐圧試験の実施しました。

【調査結果】耐圧試験の結果、2本の凍結管で損傷もしくは損傷疑いの事案を確認しました。

- ①凍結管継手部の歪みからのブラインの漏えいを確認
- ②ブラインの漏えいは確認されていないが、圧力低下を確認

【補修状況】1月20日～22日に2本の凍結管について、継手部材および保温材を交換を実施し、交換後の耐圧試験で圧力の正常を確認しました。

※漏えいしたブラインは地下に浸透していきますがブラインは、塩化カルシウム水溶液であり、周辺環境への影響はない判断しています。

- 凍結開始から継続運用している凍結管
- 過去に間引き運転※を実施した凍結管（間引き期間：2020/7/22～2021/6/9）

※ 一部区間で循環させる凍結管を半分に減らして運用

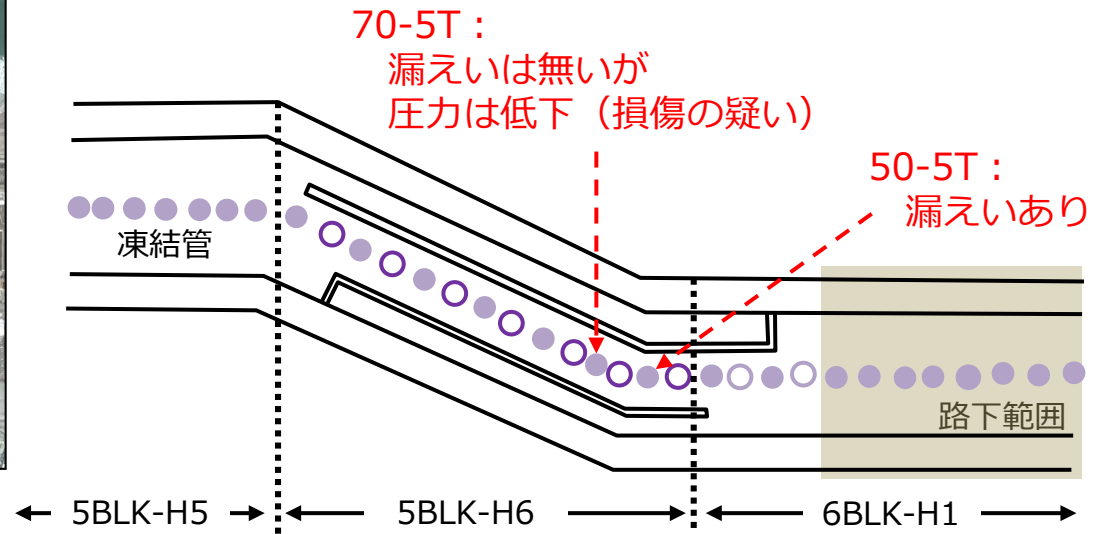
N ←



5BLK-H6エリア

位置図

N ←



【漏洩箇所位置図（5BLK-H6周辺）】

2. 損傷内容・今後の対応について

【損傷内容】

50-5T凍結管の継手部に歪みを確認。

【今後の対応】

- ①凍結管の継手部の詳細な損傷原因を調査していきます。
- ②5BLK-H6以外の凍結管について、目視点検を実施していく予定です。
- ③50-5T凍結管近傍の凍結管において、予防保全として凍結管継手部の交換を実施します。
- ④原因判明後、維持管理・保安計画への反映を検討します。



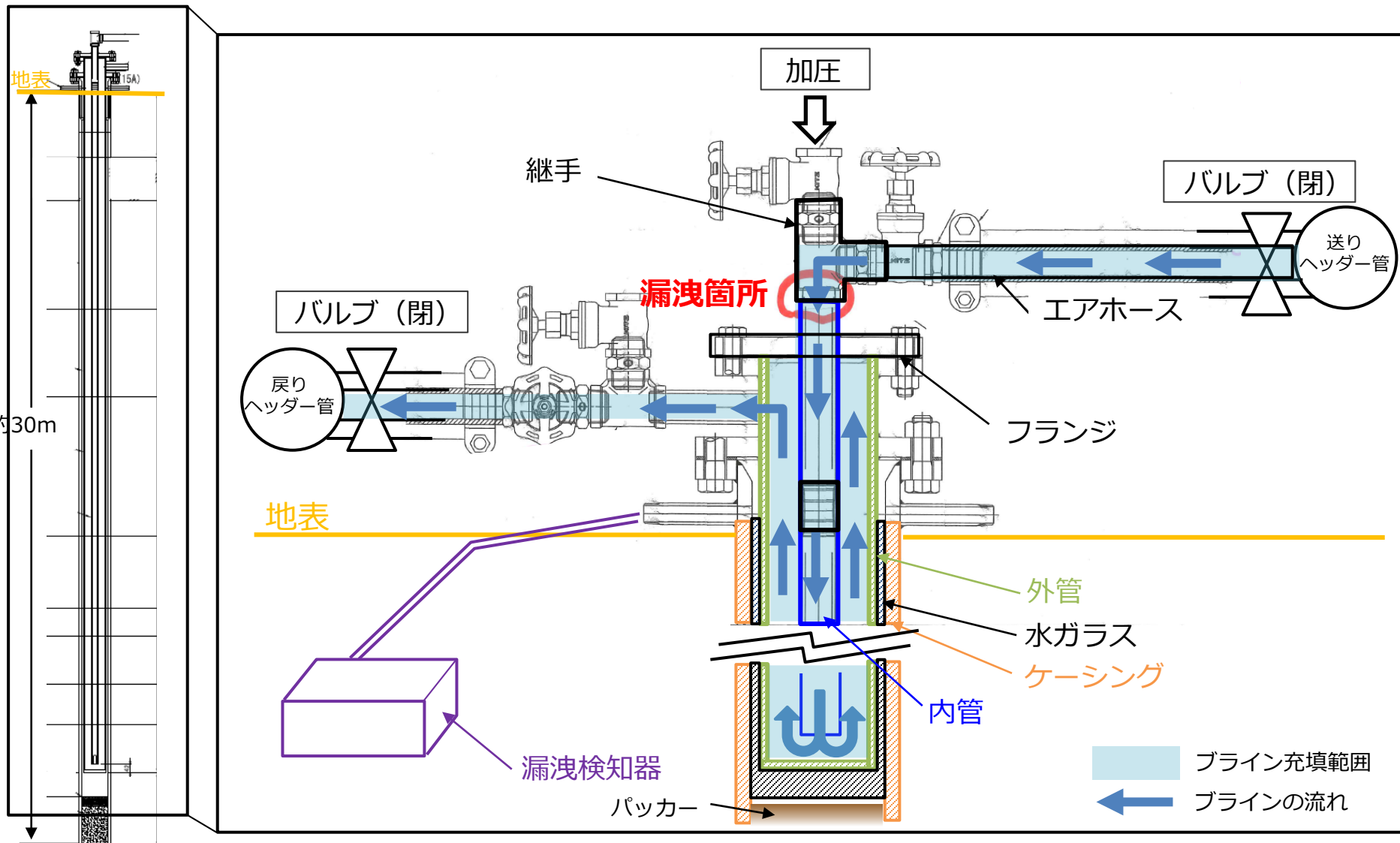
【50-5Tの凍結管頭部写真】



【継手部拡大写真】

凍結管全体図

加圧試験時のバルブ状況および加圧箇所



凍結管詳細図